



2022年10月号  
2022. 10. 31  
第56号  
発行：わらびじゆく  
笑楽日塾



## ・ 荒井塾長あいさつ

### 「自分の死亡年齢を計算出来るか」

日本人は長生きだ。9月の敬老月間の調査に拠れば100才以上が9万人を突破したそうだ。全国の100才以上の高齢者は、「老人の日」の9月15日時点で90,526人。初めて9万人を超えて、52年連続で過去最多を更新したそうだ。1年間で4,016人増えた。

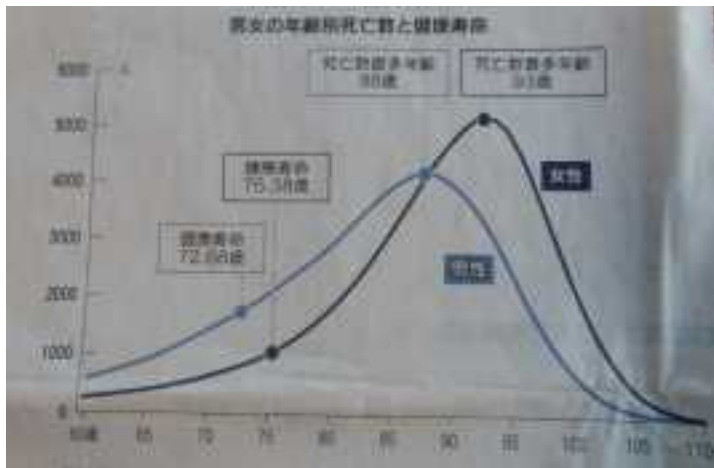


女性が80,161人で全体の89%。人口10万人当たり的人数では島根県が142人で最も多かった。次いで高知県、鳥取県が多く、最も少ないのが33年連続で**我が埼玉県**の43人だった。

国内最高齢は女性が115才。男性は111才。老人福祉法が制定された60年前の1963年には153人だけだった。1998年に初めて1万人を突破。この10年間では1.8倍になった。

さて、我が身はどうだろうか。100才になってもピンピンしているだろうか。あと17年だ。車はあと何年、安全に運転できるだろうか。10月に免許証は更新できた。

8月22日小幡郷カントリークラブで女子プロにレッスンを受けた。18ホールのプレーが終わって、プロが言った。「荒井さんは、あと5年は今の状態のプレーを続けられますよ」。一緒にプレーしたのは川口の63才、戸田の62才。二人は、飛距離は出るが、スコアは小生と余り変わらない。その二人は「あと5年で荒井さんに追いつけるかな」と言っていた。こう言われると気分がいい。体調、体力はゴルフの飛距離やスコアに現れる。あと5年、88才まで元気にプレーしたい。



一方で厚労省の気になるデータがある。上のグラフは「健康寿命」と「死亡数最多年齢」を表示している（これは2020年の人口と死亡者数を基に算出）。これを見ると男性の健康寿命は72.68才で、女性は75.38才。私が心配なのは死亡者数最多年齢である。男性は88才で、女性は93才だ。統計的には、今83才の俺はあと5年で死ぬかもしれない。

しかし、男の健康寿命（73才）と死亡最多年齢（88才）との間には15年在る。俺は今、肉体的には健康に全く問題がないと考えている。そうなら今の俺の健康寿命は83才として、あと15年は生きるから83+15年=98才で俺は死ぬと計算できるだろうか。

体力にはある程度の自信がある。毎日片足スクワット、ブルガリアスクワット、逆上がり、懸垂、腹筋、ランジなどが同じ強度レベルを維持出来ているか、自分が決めた回数をやれるかなどチェックしている。この状態を何歳まで維持出来るか。ソレガ俺の健康寿命と深く関係がありそうだ。だから、筋力を維持するために、毎日Gymnasiumへ通っている。

あと15年そんなに長生きしても、いいことはないかもしれない。あと5年で好きなゴルフが出来なくなって、その後は昨日読んだ本の続きも思い出せないようなボケ老人で、車の運転も出来ず、旅行も出来ず、そんな生活で喜びがあるだろうか。

そんなことを空想していると時間ばかり過ぎてゆく。死亡最多年齢88才までに身の回りの断捨離を完全にやっておかないといけないと分かっているが、踏み切れない。身の回りを整理してさっぱりしてしまうと急に衰えていかないだろうか。欲深な煩惱はいつまでも続く。

今年は現役の頃の思い出がいっぱい詰まった背広・コートを手放すことから始めようか。その背広を作ったときはどんな気持ちだったか、それを着て誰に会ったか、どんなときに着ていたか、思い出すとせつなくて本当に手放せるかな？ もう二度と着ることがない背広だが、それを着て戦った記憶は残っている。捨てるべきか、残しておくべきか。こういう時は、俺は全く優柔不断だ。そんなんじゃ98才はムリだろうな。



## 「報告事項」

### 1. 笑楽日塾10月 Zoomオンライン塾会報告

今月は星広行さんからの「埼玉の名刹・三学院」の紹介でした。



塾生・星氏から写真60枚と解説文40枚をまとめて頂き、多岐にわたりお話をして頂きました。

三学院の紹介をすべて掲載出来ませんが、その中よりいくつか紹介させていただきます。

#### 「三学院について」

三学院は、京都の新義真言宗智山派総本山智積院(ちしゃくいん)の末寺で、金亀山極楽寺(こんきさんごくらくじ)三学院といます。創立年代は不明ですが、本尊の木造十一面観音菩薩立像が平安時代後期の作であることや、他に現存する資料から中世以前の創建と考えられています。

天正19年(1591)には、徳川家康より、寺領20石を寄進する旨の朱印状が授与されており、以後徳川歴代将軍からも同様の朱印状が与えられています。

また、三学院は、足立坂東三十三箇寺の20番、北足立八十八箇所の30番にあたる札所としても知られています。

#### 「御本尊」

木造十一面観音菩薩立像(もくぞうじゅういちめんかんのんぼさつりつぞう)  
市指定文化財



三学院の本尊であるこの仏像は、像高約1.8メートル、一木造。

怒り肩をしていることや、裳(もすそ)の魚の尾ひれ状の表現などから、平安時代後期の造立と考えられています。なお、頭部と足先などは、江戸時代中期の後補で、享保10年(1725)の蕨宿の大火により、三学院が焼失したこととの関連が推測されています。

〔※秘仏のため一般公開はしていません〕

## 1. 馬頭観音菩薩

《馬頭観音塔（蕨市指定文化財）》



馬頭観音は、頭上に馬を頂き、憤怒の形相をした菩薩で、奈良時代に伝来したとされている。江戸時代になると農耕や交通で馬を使う人々の間に信仰が広まり、馬に対する供養や無病息災の祈願をこめて、馬頭観音塔が造立されるようになった。塔の正面に、馬頭観音像や文字を彫ったものも多く見られるが、この馬頭観音塔は梵字で「南無馬頭観音」真言が刻まれており、珍しく貴重なものです（案内板より一部引用）。

馬頭観音の由来はヒンズー教における最高神ビシュヌ神が馬に化身して強力な力を発揮したという神話に由来したそうで、本来は明王でそれが観音に変化したといわれています。

## 2. 六地藏

『六地藏（蕨市指定文化財）』



人が死後に転生するするといわれる六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人間道・天道）にあつて、衆生を救済する六種の地藏菩薩の総称です。六地藏としては蕨市内で最古のもので、1体ずつ造立した地藏菩薩を、後に六地藏としたものです。

地藏菩薩は阿弥陀如来に従って極楽浄土へ案内する。また、不幸にして地獄に落ちた者でも極楽浄土へ行けるよう努力して下さいます。

## 3. 弘法大師（空海）



三学院の仁王門を抜けた正面はとても大きくて立派な本堂があり、本堂の手前には修行大師像（弘法大師像）があります。案内板には『宗祖弘法大師 1150 年御遠忌奉修を記念して奉安された。唐銅にして総丈 12 尺余あり、近隣随一である（案内板より抜粋）。』と書かれています。12 尺余（3.6m強）の大変大きなものです。

## 「空海豆知識」



空海（くうかい、774年〈宝亀5年〉 - 835年4月22日〈入定：承和2年3月21日〉享年62才）は真言宗の開祖。

俗名は佐伯 眞魚（さえきのまお）と呼ばれ、弘法大師（こうぼうだいし）と呼ばれたのは、死後80年以上も経ってから国家（朝廷）が空海に与えた諡号（しごう：贈り名）です。

有名な話では天台宗・最澄との「理趣釈経」の借用についてのやりとり（借用依頼を拒絶）のなかで、空海は「密教の奥旨（奥義）は文章により頭で理解するものではない。ひたすら心から心へ伝えるものです」と説いたと伝えられています。

三学院について更に興味のある方は「笑楽日塾の事件簿」ブログを参照してください。

完





## 「シニアの風」

(順番制で行います。11月「シニアの風」投稿は 八木 守さんです)

### 「礼節を忘れないで」

荒井 貞夫

9月27日、国民の約6割が国葬に反対の空気が漂う中で、安倍元総理の国葬が執り行われた。日本武道館の外では激しく国葬反対のデモが行われていた。デモの中には著名な知識人、大学教授の顔も見られ、激しく反対する声を張り上げていた。その様子は内外の報道陣も見ていた。

私は安倍晋三元首相の国葬は不要だと考えていたが、岸田首相は自民党の安倍派勢力を取り込むために、国会承認という手続きを抜いて早々と国葬を決めてしまった。

誰にも間違いがあるから、改めること、引き返すことはできたのに。



厳かに執り行われた国葬に反対の行動を示す事に私は反対しない。しかし、葬儀の当日は死者へ礼節を尽くして静かに行動できなかったのだろうか。日本人が持つ礼儀、礼節を重んじる心を大切にしたい。

9月8日に96才で死去した英国のエリザベス女王の葬儀(9月19日)を思い出します。普段は分裂している国民が、この日は一体となって女王の死を悼んでいた。

この混沌とした空気を払うために、この機会に私たちは礼節を重んじる国民として反省したい。村8分という言葉がある。相手が憎く対立し和解できなくても葬儀と火事の2分は別なのだ。

自分の考えと容認しがたい相手でも、死者を弔うときには静かに見送るのが礼儀と思う。

(2022年9月28日に記す)

完



八木 守

十牛図 第2段階  
見跡

(けんぜき／けんせき)

10月はお天気の良い日あまり多くありませんでした。春に咲く桜が気温の温度差により、狂い咲き？がTVなどで話題になり、高山や東北は赤黄色の紅葉の季節となり、冷たいビールも良いですが、熱爛の恋しい季節になりました。

塾生の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

今回の塾長の「シニアの風」に投稿されていた礼節、礼儀について、「自分の考えと容認しがたい相手でも、死者を弔うときには静かに見送るのが礼儀と思う。」すごく大切なことです。これを忘れると自分の心がますます荒び、汚れてきます。死者に対しては敬う心が必要と感じました。



さて、9月号の続きで今、作成中の「十牛図」の第2段階・見跡（けんぜき／けんせき）挿絵（水墨画）をお届けします。

**第2段階 見跡（けんぜき／けんせき）：牛の足跡を見つける。**

歩きまわって疲れが限界にきていた旅人は、自力で牛を探すことをやめました。そこでお経を読み、いろいろな人から教えをうけて牛のゆくえを追いました。そのたびに、いったい、誰の言うことが正しいのか、何を信じればいいのか分からなくなってきました。なぜなら、お経に書かれたり教えられたりした牛は、自分の牛ではないからです。

でもそれは意味のないことではありません。他人の牛でも、牛は本当に実在することは分かったからです。足あとをたどれば、自分の牛は見つかるかも知れません。そして、牧人は牛の足跡を見つめます。牛の足跡とは、釈迦の教えである「自らを灯明とせよ（自分を抛りどころとせよ）」を表していると解釈されます。牛の足跡は、ほんとうの自分はどこにいるのかが表れかけていることを示しています。

次回は第3段階 牛を見つける「見牛（けんぎゅう）」をお届けします。

続く